

熊本女子大学 (県立4年制)

昭和53年度 学生募集要項・入学案内



熊本市大江2丁目7番1号
電話 62-6668 (0668) 66-2201

熊本女子大学の概要

設置者 熊 本 県

所在地 熊本市大江2丁目7番1号
電話代表 (0963) 66-2201

沿革 昭和22年3月 熊本県立女子専門学校創立
昭和24年4月 熊本女子大学に昇格
昭和26年2月 教職課程設置文部省より承認
昭和26年3月 熊本県立女子専門学校廃止
昭和26年4月 栄養士養成施設として厚生大臣より指定
昭和28年1月 学部名称変更 (学芸学部を文家政学部に)
昭和32年3月 学生定員増加 (家政学科60名を80名に)
昭和33年2月 学生定員増加 (文学科国文学専攻20名を40名に)
昭和35年1月 学科増設 (文学科を国文学科と英文学科に)
昭和37年12月 学科増設 (食物学科)

大学の組織
学部・学科

文家政学部 { 家政学科
食物学科 (栄養士養成課程)
国文学科
英文学科

附属施設 熊本女子大学付属図書館

学生募集要項

受験資格

1. 高等学校を卒業した者、(昭和53年3月卒業見込の者を含む)
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者、および昭和53年3月修了見込の者。
3. 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。

募集人員

学 部	学 科	募 集 人 員
文家政学部	家 政 学 科	50名
	食 物 学 科	40名
	国 文 学 科	50名
	英 文 学 科	40名
計		180名

願書請求

熊本市大江2丁目7番1号 熊本女子大学教務課 (郵便番号862)
 願書の郵送を希望するものは、郵便番号明記のうえ切手140円(定形外60円相当額)を添えて教務課あて請求すること。返送用封筒は不要。
 願書の請求は12月1日から

願書受付

受付期間 昭和53年2月1日より10日まで(締切日、消印有効)
 受付時間 日曜日、祭日を除き平日は午前9時から午後4時30分まで、土曜日は正午までとする。
 受付場所 熊本市大江2丁目7番1号
 熊本女子大学 教務課

出願手続

1. 志願者の提出するもの

- (1) 入学志願票(必ず自筆で正確に記入すること。写真票、受験票に貼付する写真は、脱帽上半身正面、無背景とし、白黒、縦4cm 横3.5cm、最近3ヶ月以内に撮ったものとする。)

- (2) 調査書(出身学校長から提出される文部省所定の様式のもの。)
- (3) 受験票返送用定形封筒(住所、氏名、郵便番号を明記し切手を貼付したもの。)(直接持参して提出するときは不要)
- (4) 受験料 10,000円
- (5) その他 前々年度以前の高等学校卒業生(51年3月卒を含む。)
 及び大学入学資格検定の合格者は、視力、色覚、聴力、結核及びその他の疾病、異常等についての医師が作成した健康診断書(様式は特に定めない。)を提出すること。

2. 願書提出先

熊本市大江2丁目7番1号(郵便番号862)

熊本女子大学 教務課

郵送で出願するものは、出願書類に受験料(為替)を添えて必ず書留便で教務課あて送付すること。(直接持参して提出する場合、受験料は現金でよい。)

(注) 願書に不備がある場合は受理しないことがある。

学力検査科目

国 語—現代国語・古典Ⅰ乙

社 会—政治・経済、日本史、世界史、から1科目選択

数 学—数学Ⅰ・数学ⅡB

理 科—物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰ、から1科目選択

外国語—英語B

(注) 選択科目については、受験希望の科目を入学志願票に記入すること。いったん届け出た受験希望科目の変更はできない。

学力検査日時割

3月22日	8時50分まで	9時～10時30分	11時20分～12時50分	14時～15時30分
水曜日	試験場集合	外国語	国語	社会
3月23日	8時50分まで	9時～10時30分	11時20分～12時50分	
木曜日	試験場集合	数 学	理 科	

試験場

熊本市大江2丁目7番1号 熊本女子大学

合格者発表

昭和53年3月30日（正午）

本学掲示板に掲示し、あわせて本人に合格通知を郵送する。なお電報による可否の照会、又電話連絡には、応じない。

その他 入学手続に必要な書類は「合格通知」とともに送付する。

(注) (1) 受験生は現住所を変更したときはただちに連絡すること。

(2) 入学を取消す場合は必ず入学金納入日（4月8日）までに連絡すること。

受験者注意事項

1. 受験票

受験票は試験期間中常に所持していなければならない。これを所持しないものは、如何なる事由があっても試験場に入ることを許可しない。試験場ではこれを机上右側に置いて監督員によく見えるようにしておくこと。受験票を紛失または忘れた者は、すみやかに係員に申し出ること。

2. 入学試験場における心得

- (1) 試験当日は試験開始10分前までに試験場に入場して指定席につくこと。
- (2) 試験場では鉛筆などの筆記具、小刀、消ゴム、コンパス、定規及び尺度の使用を認めるが、その他特に指示されているもの以外の使用を許さない。
- (3) 答案用紙には用紙の指定の箇所に受験番号のみを記入すること。
(氏名を記入してはならない)
- (4) 試験問題については一切質問を許さない。印刷の文字不明の場合はこの限りではない。
- (5) 談話、音読あるいは許可を得ないで自席を離れることを許さない。
- (6) 答案は所定の用紙に明瞭に書くこと。他の用紙に書いたものは無効とする。

- (7) 社会及び理科の教科については、入学志願票に記入した科目の問題用紙であるかどうかを確かめること。（選択科目）
- (8) 試験開始後20分を経過すると入場を許さない。
- (9) 試験開始後30分を経過しなければ退場を許さない。
- (10) 答案と計算用紙とは別々に自己の机上に伏せて退出すること。
- (11) 問題用紙、答案用紙、計算用紙は断片でも試験場外に持ち出すことを許さない。
- (12) 答案はいったん差し出した後、たとえ誤りがあることに気付いても訂正することは許さない。

3. 試験中止

- (1) 1科目の学力検査に欠席した者は、その後の試験を受けることを許さない。
- (2) 試験中、監督員の指示に従わないとき、その他不都合の行為があると認めるときは、退場を命じその後の試験を受けることを許さない。
- (3) 試験中トイレに立つ場合は、監督員の随行を受けること。監督員の随行のない場合は、当該時間中の再入室を許さない。

4. その他の注意事項

- (1) 学内においては秩序を守り静粛にし無用の場所に無断で立ち入ってはならない。
- (2) 交通機関を利用する受験者は延着のおそれがあるので遅刻することがないように注意すること。
- (3) 暖房をしないので、受験に支障のないよう注意すること。
- (4) 不明の点については教務課に問い合わせること。

入学案内

1. 学 資 (入学金、その他の納金) 昭和52年度のもの

種 別	入学手続時納金		入学後の納金	
入 学 金	県内生	40,000円	入学時のみ	
	県外生	80,000円		
授 業 料	1期分	32,000円	2期分	32,000円
			3期分	32,000円
父 兄 後 援 会 費	1期分	2,400円	2期分	2,400円
			3期分	2,400円
内 容 充 実 費	県内生	25,000円	入学時のみ	
	県外生	37,000円		
食 物 学 科 実 験 費		10,000円	〃	
同窓会終身会費積立金	1期分	800円	2期分	800円
			3期分	800円
計	県内生	100,200円		
	(食物学科)	110,200円		
	県外生	152,200円		
	(食物学科)	162,200円		

※53年度は改正もありうる。

2. 授業科目並びに学科の紹介

一般教育科目

学科の如何を問わずいずれの学科の学生も、入学後最初に履修しなければならない科目である。一般教育科目の授業科目は次のとおりであり、学生はその科目のうち所定の選択方法により履修する。

(人文分野)

哲学、倫理学、論理学、心理学、美学及び美術史、文学、音楽、総合科目

(社会分野)

法学(1)、法学(2)、社会学、経済学、歴史学、家政学、教育学、政治学
総合科目

(自然分野)

数学、統計学、物理学、化学、生物学、生理学、総合科目

外国語

いずれの学科の学生も英語は必修とし、独語、仏語は2科目のうち1科目を選択して履修する。

保健体育科目

いずれの学科の学生も必ず履修しなければならない科目である。

健康教育概論及び体育理論、体育実技

家政学科

家政学科は社会の基礎である家庭、家族、生活科学の研究を目的とし、家族及び家庭生活に関する理論と技術を研究し、単に学問的な研究に終ることなく実生活の福祉向上をめざしている。専門科目は家庭経営学、被服学、食物学、住居学ならびに児童学の各分野にわたって編成している。

卒業後は中・高校の家庭科教員として就職するものが最も多く、生活改良普及員、一流事業所のカウンセラー、秘書、ファッションメーカーの専門技術員等として広い分野に進出し、地域社会の向上発展に貢献している。京浜地区に就職しているものも多い。

(専門科目)

家政学原論、家族関係、家族心理学、家族史、家族社会学、家政学特論、社会福祉、家庭管理学、家庭機械及び家庭電気、製図及び家庭工作、家庭経済学、流通論、国民所得論、住居学、室内装飾、住居史、栄養学概論、食品学概論、調理学、調理実習、食品化学、栄養化学、食品加工貯蔵、公衆衛生学、児童学概論、育児学(家庭看護を含む)、栄養学特論、被服学概論、被服材料学、同実験、服装美学、服装史、被服整理学、同実験、被服構成学、同実習(1)、被服構成学実習(2)、染色学、同実験、意匠学、色彩学、美術製作、保健衛生学、食物学概論、服飾工芸実習、食物学実験、外書講読、美術研究

食物学科

(栄養士養成課程)

食物学科は、食物、栄養に関する理論と応用を専門的に教授研究し、食生活に関する高度の科学性を養い、あわせて専門的職業に必要な知識・技能を修得させることを目的としている。したがって、専門科目としては、栄養学、食品学、衛生学、調理学に重点をおき、それぞれ基礎的科目と応用科目とが十分履修できる。また家庭生活全般に関する教養を高めるため

家庭経営学、児童学、被服学、住居学等も履修できるようにしてある。

卒業後は食品・栄養に関係のある大学研究機関、会社などの研究員、保健所・病院・工場などの栄養士、あるいは中・高校の家庭科教員になることができる。また、卒業と同時に、管理栄養士国家試験の受験資格があり、それに合格すれば管理栄養士になることができる。

(専門科目)

栄養学総論、栄養生理学、同実験、栄養生化学、同実験、特殊栄養学、同実習、病態栄養学、公衆栄養、食品化学、同実験、食品材料学、同実験、食品加工貯蔵学、同実験、応用微生物学、食品衛生学、同実験、公衆衛生学、同実習、栄養指導理論、同実習(1)、同実習(2)、調理学、同実習(1)、同実習(2)、給食管理理論、同実習、食糧経済、社会福祉(社会心理学を含む)、経営管理、生理学(病理学を含む)、同実験、微生物学(病原微生物学、免疫学)同実験、有機生物化学(高分子化学を含む)、数理統計学、同実習、家庭機械及び家庭電気、製図及び家庭工作実習、被服材料学、被服構成学、同実習(1)、被服構成学実習(2)、育児学(家庭看護を含む)、家政学原論、家族関係、被服学概論、児童学概論、住居学、家庭管理学

国 文 学 科

国文学科は、我が国古代から現代に至る文学・語学の全分野について教授・研究し、あわせて漢文学その他関連諸科目を修め、より高い知識と教養及び情操を養うことを目的とする。

なお、卒業生は、各種社会の中堅指導者として活躍しているが、主な就職先としては中・高校の国語科教員を始め、出版、報道、放送関係及び官公庁、会社等幅広く、又全国各地にわたっている。

(専門科目)

言語学概論、文学概論、国語学概論、国語史、国語音韻論、音声言語、文章表現、国語学演習、国文法演習、国文学概論、国文学史(1)、国文学史(2)、国文学特殊研究(1)、(2)、(3)、国文学作品研究(1)、(2)、(3)、国文学演習、中国文学史、漢文学作品研究、漢文学特殊研究、書道(書写を中心とする)、国史学特殊研究、日本文化史、西洋文化史、美術研究

英 文 学 科

国際化の著しい最近では、語学への関心が更に高まり、英語はその筆頭といえる。英文学科では、英語学・イギリス文学・アメリカ文学の専門的な教授・研究を通じて、語学力を向上させ、鑑賞力を培い、豊かな人間性の涵養を目ざす。そのために、一部、クラスを細分化して、実を上げるよう努めている。あわせて、時代の要請する実務的な面(英会話・英作文)の習熟にも重点を置いている。

卒業後は、国際電信電話のオペレーター、企業のコンパニオン、スチュワーデス、イングリッシュ・センターの教師など、語学を生かせる職場からの求人が多い。京浜・阪神地区にもかなり進出し、就職している。また中・高校の英語科教員として各地で活躍している。

(専門科目)

言語学概論、英語学概論、英文法概論、英語音声学、英語史、英語学演習(1)、(2)、英語学特殊研究、英作文(1)、(2)、(3)、(4)、英会話(1)、(2)、(3)、(4)、国文学史、米文学史、英米批評文学、英詩概論、英米文学特殊研究(1)、(2)、英米史、英米文学作品研究(1)、(2)、(3)、(4)、英米文学演習(1)、(2)、西洋史概論、西洋文化史、美術研究、西洋文学史、演劇概論

教 職 課 程

教職課程は各学科の学生が教員を志望する場合に履修しなければならないものである。

(教職課程科目)

教育原理、教育史概説、教育社会学、教育心理学、青年心理学、教科教育法、教育実習、道徳教育の研究、比較教育学

在学中の特典及び卒業後の資格

1. 在學生は育英会及びその他の奨学金、授業料減免の特典を受けることができる。
2. 卒業生に対しては、その履修した学科に応じて、家政学士・文学士の学士号が与えられる。
3. 教職課程科目を履修したものには次のとおり教科別の中学校教諭1級普通免許状及び高等学校教諭2級普通免許状の授与資格が与えられる。

家政学科	家庭
食物学科	家庭
国文学科	国語
英文学科	外国語(英語)
4. 本学所定の栄養士養成課程(食物学科)を履修した者には栄養士免許証の授与資格及び管理栄養士国家試験の受験資格が与えられる。

学 生 生 活

あすの女性に求められるのは専門職業人として社会のいろいろな方面に有為の活動をすると共に、進歩する科学、文化時代の新しい家庭生活の管理者として優れていることである。そのために本学では、幅広い高度の教養と深い学識を身につけるために、教職員・学生一体となって勉強にまたクラブ活動に一生懸命に頑張っている。

生活費

下宿(2食付)	約23,000円
間借(4畳半)	約8,000円
学寮(寮費、食費等月額)	約10,000円

日本育英会奨学生

一般貸与奨学生	月 額	11,000円
特別貸与奨学生	自宅外通学	18,000円
	自宅通学	13,000円

卒業生の就職状況

卒業生の就職については県内はもとより、全国にわたり開拓、あっ旋に努力しており、就職状況はきわめて良好である。

主な就職先については、各学科の紹介で述べたとおりであるが、全学科を通じて卒業後3ヵ月ではほぼ100%に近い就職が決定している。

学生 の 課 外 活 動

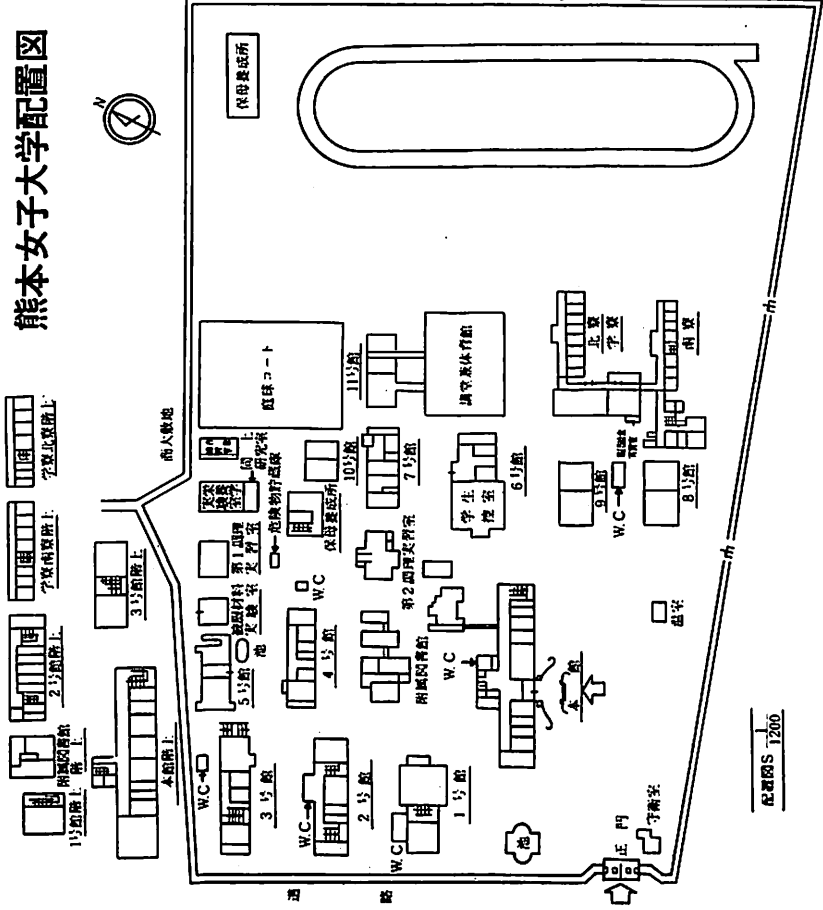
大学の授業以外に、学生生活の向上をはかるために全学生で組織する学生自治会があり、別に、人格形成の場として文化、体育サークルがある。全学生の健全なる品性と身体の陶冶を目指して、親睦と融和のうちに自主的に活動し、優秀な成果をあげている。

各サークルにはつぎの部がある。

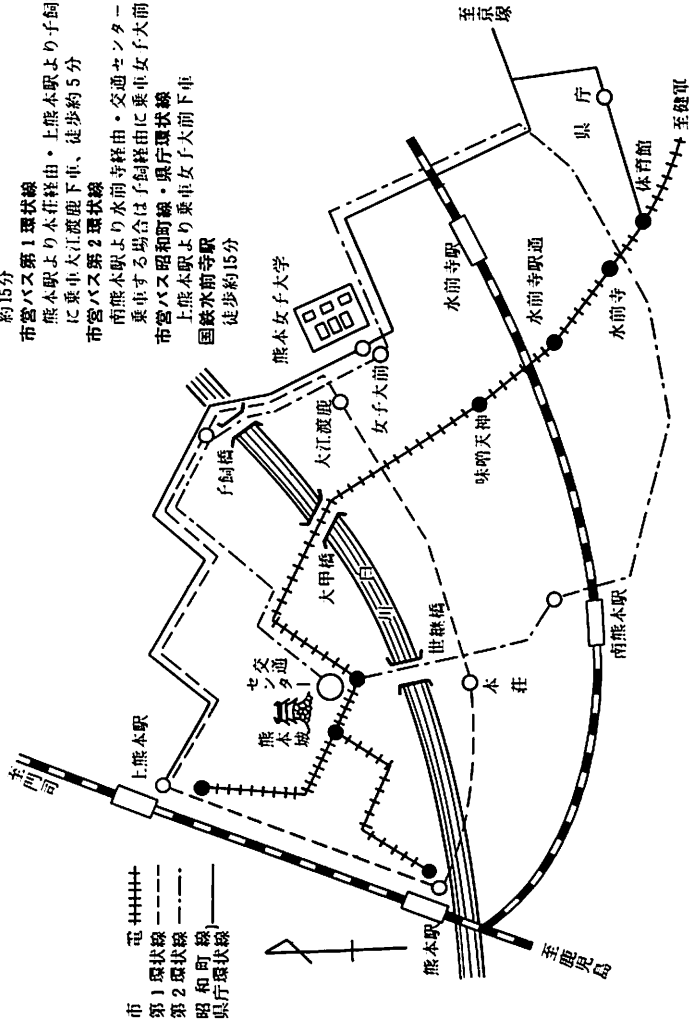
【文化サークル】 文芸、美術、マンドリン、ESS(英会話)、華道、茶道、社会福祉、写真、映画研究、書道、YWCA、箏曲、日本舞踊、ユースホテル、コーラス

【体育サークル】 卓球、庭球、排球、バドミントン、体操ダンス、ワンダフォーゲル、自動車、弓道、航空、民族舞踊研究、サイクリング(同好会)

熊本女子大学配置図



熊本女子大学案内図



市電 熊本駅より健康館行に乗車味町天神下車、徒歩約15分
 市営バス第1環状線 熊本駅より水町経由・上熊本駅より子飼経由に乗車大江渡能下車、徒歩約5分
 市営バス第2環状線 南熊本駅より水町寺尾由・交通センターより乗車する場合は子飼経由に乗車女子大前下車
 市営バス昭和町線・県庁環状線 上熊本駅より乗車女子大前下車
 国鉄水前寺駅 徒歩約15分

市電+++++
 第1環状線-----
 第2環状線.....
 昭和町線——
 県庁環状線——